

(お知らせ)

第 41 回シンポジウム／第 19 回超伝導科学技術賞授賞式に際して参加者の方へ配布した「受賞者のプロフィール」の一部に編集上の誤りがございました。お詫びして訂正申し上げます。

第 19 回超伝導科学技術賞 「受賞者のプロフィール」 P14

(訂正後のプロフィール)

超伝導は、その発見から 100 年余りが経ちますが、依然、多くの研究者を惹きつけてやまない魅力的な研究対象です。銅酸化物高温超伝導体の発見以来、未だにその謎解きは続いており物性物理学の最大の難問といえますが、同時に室温超伝導の実現はいうまでもなく我々科学者にとって大きな夢であります。高温超伝導が発見された当時、私は大学教養学部生でしたが、そのニュースに衝撃を受けたことを今でも覚えています。その興奮冷めやらぬ中に、専門課程に進学しましたが、もともと興味があった光の分野、特にレーザー分光、光物性物理学の研究分野に進み、主に半導体の研究を進めてきました。その一方で、巨視的量子現象である超伝導には常に魅力を感じ続けていましたが、これはやはり学部生の頃の強烈な刺激によるのかもしれませんが。この度、超伝導という魅力的な現象を研究する機会に恵まれ、新しい光の技術によって超伝導のヒッグスモードという基礎的な性質の解明に貢献することができたこと、さらにそれが新たな非線形光学効果をもたらすということがわかったことは大きな喜びであり、超伝導科学技術賞という名誉ある賞を受賞させていただくことができたことは、研究者として大変光栄に思います。この研究が、今後さらに発展し、超伝導の科学・技術の進展に僅かでも貢献することできれば本望です。